



1月うぶやま天文台星空情報 2

しぶんぎ座流星群を見よう



天空が広がるうぶやまの高原には、厳しい北風が吹いています。周囲の山々には積雪があります。大変寒いのですが、冬は空気が澄み切っていて星空は一番きれいです。

「しぶんぎ座流星群」は、8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群とともに、三大流星群と呼ばれています。毎年安定して多くの流星が出現するペルセウス座流星群やふたご座流星群と比べると、「しぶんぎ座流星群」は活動が活発な時間が短いことや、年によって出現数が変化しやすいことから、流星が多く見える年は限られます。

今年の「しぶんぎ座流星群」の極大は、1月4日0時頃(3日深夜)と予想されています。ただしこの時間帯は、日本では放射点が空の大変低い位置にある(まだ昇っていない)ため、流星が出現したとしてもその数はとても少なくなります。その数時間後にあたる4日未明から明け方の時間帯には、放射点も高くなり見頃になるでしょう。月明かりの影響もなく、好条件のもとで観察できそうです。

流星が目立っても見え始めるのは、4日2時頃です。時間の経過とともに放射点が高くなり、流星数が増加していきます。最も多く見えるのは5時頃で、実際に見える流星の数は、空の暗い場所で1時間当たり約30個と予想されています。その後は夜明けとともに流星は見えなくなります。

流星は放射点を中心に放射状に出現します。ただし、放射点付近だけでなく、空全体に現れます。いつどこに出現するかも分かりませんので、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。また、屋外の暗さに目が慣れるまで、最低でも15分ほどは観察を続けると良いでしょう。レジャーシートを敷いて地面に寝転んだり、背もたれが傾けられる椅子に座ったりすると、楽な姿勢で観察できます。

大変寒い季節ですので、寒さ対策をしっかりと行ってください。事故に遭わないように十分に注意し、マナーを守って観察をしてください。

【観察対象】

